

令和6年度学校自己評価システムシート（県立川越工業高等学校 定時制）

目指す学校像	社会の変化に主体的に対応できる力と自立する力を育成する
--------	-----------------------------

重点目標	1 学業に意欲を持たせ、基礎学力、技能の定着を図る 2 地域や家庭と連携した生徒指導・生徒支援を推進する 3 社会の中で自己実現できるキャリア教育を推進する
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 (月 日 現 在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	【現状】 ・多様な学力の生徒が在籍している。 ・ICT 機器の活用は定着しつつある。 【課題】 ・授業や課外活動に自主的に取り組む態度の育成。 ・学習サポーターの効果的な活用。 ・現状と今後を見据えた教育課程の再編成。	・魅力ある教育活動の展開 ・基礎学力、技能の定着	①授業改善とカリキュラムマネジメントを意識した指導計画の作成と実践 ②教育課程の点検と見直しの着手 ①学習の理解と定着が不足する生徒に向けた手厚い指導 ②役割・分担を明確に意識した学習サポーターの活用 ③各種検定や資格に関する情報提供と受験・資格取得の奨励	①学校評価アンケート、職員面談等で生徒の学習意欲の向上が確認できたか。 ②教育課程は適切に編成されたか。 ①成績不振者に対する指導と追認試験が実施されたか。 ②生徒アンケートにより高評価が得られたか。 ③検定合格者、資格取得者が現れたか。			
2	【現状】 ・専門員や外部機関からの手厚い支援により生徒指導を展開している。 ・日本語を母語としない入学生が増加している。 【課題】 ・特別支援コーディネータや専門員、外部機関との効果的な連携と指導・支援方針の共有。 ・家庭、学校関係者や地域に向けた教育活動の理解促進。	・家庭、地域、関係機関と連携した教育相談、生徒支援 ・日本語を母語としない生徒に向けた日本語教育	①生徒に関する正確かつ詳細な情報の一元管理と教職員間での共有。 ②家庭・地域に向けた本校情報の正確な伝達 ③SSW、SC、巡回支援員と連携した指導と支援 ①日本語支援員と本校教職員の連携による日本語教育	①「生徒情報共有シート」の内容の充実と活用が図られたか。 ②授業参観者、Web サイト閲覧者、保護者メール登録者は増えたか。 ③教職員と専門員との共通理解が図られたか。 ①日本語を母語としない生徒の日本語能力が向上したか。 ・漢字理解力 ・日本語検定受験者			
3	【現状】 ・基本的生活習慣の定着は向上が見られる。 ・卒業後の進路選定に向け、粘り強い指導が続けられている。 ・就職希望の他、進学を希望する生徒も一定数存在する。 【課題】 ・生徒の自立を目指した教職員分掌間の連携指導。 ・持続可能な挨拶運動、巡回指導の計画と実施	・基本的生活習慣の定着と社会性の向上 ・生徒の進路実現	①登校時における挨拶運動 ②「成長への行動指針」を生徒・教職員の共通理解とする生徒指導。 ③時機に合わせた学校内外における巡回指導の実施 ①内外の講師による進路ガイダンスの実施 ②就職支援アドバイザーとの連携による就職指導 ③上級学校進学希望者に対する適切な進学指導	①②出欠席等は改善したか、規律ある授業が展開できたか。 ①②社会人にふさわしい挨拶・言葉遣い・態度への変容が見られたか。 ③課題のある生徒に適切な指導・助言が行われたか。 ①自己理解の深化と社会参画に向けた意欲が高まったか。 ②③生徒の進路実現ができたか。 ②③進路未定者数の減少が図られたか。			

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	令和 年 月 日
学校関係者からの意見・要望・評価等	